第３章 湖西市の歴史文化の特性

第３章 湖西市の歴史文化の特性

第１章から第２章まで、本市の自然的環境や社会的環境、歴史的環境、文化財について記載しました。これらの内容をふまえ、他市町村とは異なる本市の歴史文化の特性を以下の通り示します。

① 浜名湖と湖西連峰に育まれた暮らし

本市の人々は、古より浜名湖と湖西連峰から得られる様々な恵みに育まれながら暮らしてきました。現代においても農業や水産業、観光産業の面で浜名湖と湖西連峰は欠かせない存在です。浜名湖は豊かな水産資源の宝庫で、縄文時代から現在まで人々の暮らしを支えてきました。

また、交通や産業の発展にも大きな影響を与えました。現在も漁業や養殖業、ボートレース、マリンスポーツ、景勝地など様々に親しまれています。

湖西連峰はかつて霊山として本市の人々の信仰を集め、平安時代に大知波峠廃寺跡の前身となる寺院が栄えました。明治時代にミカン栽培や大知波石の産地として、麓の人々の生活に欠かせない存在になりました。現在もミカン栽培やハイキングコース、浜名湖を一望できる展望スポットとして多くの人々に愛されています。

②東海道の往来がもたらした文化と産業の発展

東海道がひらかれ、大勢の人々が本市を往来したことで、宿を中心に経済と文化が発展しました。明治時代の東海道本線の敷設後は鷲津駅周辺が急速に発展し、現代まで続く産業の礎が築かれました。

奈良時代から江戸時代までは、東海道の沿線地域が本市の経済と文化の中心として発展しました。橋本宿、新居宿及び白須賀宿は特に多くの人々が訪れ、橋本宿の源頼朝伝説や夏目甕麿の活躍、国学の発展など多数の歴史文化が誕生しました。

明治時代に東海道本線が開通すると、長距離移動の手段が徒歩から鉄道に代わりました。江戸時代に宿場町として栄えた白須賀宿は、鉄道の沿線から離れたことで人の往来が激減し、農業と漁業を生業の中心とする町へと転換しました。一方で、鷲津駅の周辺が本市の製造業の中心として急速に発展し、現在の鷲津地区が生まれました。

③湖西を襲った自然災害と復興の営み

本市は過去に幾度も大規模な自然災害に襲われ、そのたびに壊滅的な被害を受けました。一方でこれらの自然災害と、そこからの復興の営みは、その後の本市の歴史に大きな影響を与えました。

明応地震、慶長地震、宝永地震、安政東海地震、そして昭和東南海地震と、本市は記録に残るだけでも５度も南海トラフ地震に襲われ、そのたびに壊滅的な被害を受けました。さらに、

台風や高潮などの風水害も頻発し、時には甚大な被害がありました。一方で明応地震をはじめとする室町時代の自然災害により今切口が開口したことが、今切渡船による新居地区の発展と新居関跡の設置につながりました。また災害からの復興の過程で、新居宿と白須賀宿の町割りや宿場景観、新居関跡の関所建物など、現在まで受け継がれている文化財が誕生しました。

④国境と新居関所が生んだ歴史文化

本市には国境と新居関所という二つの境界があり、それぞれに由来する文化財が誕生しました。現在も静岡県最西端に位置する県境の市であり、本市の人々は浜松市と豊橋市の双方と関わりながら生活しています。

奈良時代に各地に国境が定められ、本市は三河国と遠江国の境界の地になりました。これ以降、湖西連峰は国境の山として人々の信仰を集め、山中に大知波峠廃寺跡となる寺院が築かれました。また、各地で争いが頻発した室町時代には、国境である本市が戦略上重要視され、宇津山城や境目城が構築されました。

江戸時代には、浜名湖東岸地域との間に新居関所という新たな境界ができました。これにより浜松方面との往来が制限されるとともに、本市の村々が三河国吉田藩の支配下におかれました。その結果、諏訪神社手筒花火に代表されるように、方言や慣習、祭礼など様々な面で吉田藩の影響を受けた文化が成立しました。また、本市の人々に三河方面への帰属意識が形成され、明治時代には西の行政区画への編入を目指す運動が起こりました。現在は静岡県西端のまちとして、本市の人々は通勤や通学、買い物など様々な面で、浜松市と豊橋市双方に深く関わりながら生活しています。

⑤モノづくりへの情熱―須恵器生産から繊維工業、機械工業へ―

本市のモノづくりは奈良時代の須恵器生産に始まり、鎌倉時代の中世陶器生産、明治時代から昭和時代の繊維工業、そして現代の自動車関連産業へと変遷しました。産業が移り変わる中で、本市の人々にモノづくりへの情熱が生まれました。

古墳時代から奈良時代にかけて、本市は全国でも有数の須恵器生産地で、最盛期には東日本の広範囲を流通圏としました。また、須恵器生産が衰退した後、平安時代の終わりから鎌倉時代に再び陶器生産が盛んとなりました。

明治時代に鉄道駅が設置されると、繊維工業が急速に成長しました。特に駅が置かれた鷲津地区は繊維工業のまちとして急速に発展し、大正時代から昭和初期に大規模工場が多数進出しました。明治時代以降に整えられた工業基盤を基に、戦時中から戦後には機械工業への転換が進み、現代の本市の産業が形作られました。このように、古代にまでさかのぼるモノづくりの伝統が、本市の人々のモノづくりに対する情熱を育みました。